

カスケディア・トレーディング社(埼玉)

## リンゴ搾りかすで飼料 黒石に新工場、10月稼働

牛の飼料の輸入卸売り販売などを手がける「カスケディア・トレーディング」(さいたま市)が、黒石市にリンゴの搾りかすを乾燥させて作る飼料の工場を開設することになり1日、同市産業会館で調印式を行った。

同社の石井寛文代表取締役が高樋憲市長、三浦雅彦県商工労働部長と協定書を取り交わした。

高樋市長は「環境保全の歩みをさらに強固にし、互いに地域貢献したい」、三浦部長は「本県の産業振興に寄与する取り組みで、できる限り支援協力したい」、石井代表取締役は「ウクラ



事業所開設に係る基本協定調印式

イナ情勢で畜産を取り巻く環境は厳しいが、国産の良質な飼料を生産し、雇用創出で地域活性化を目指す」などと、それぞれあいさつした。

同社は2017年設立で資本金1千万円、従業員数11人。22年10月期の売上高は35億9200万円。

協定書を手にする(左から)三浦部長、石井代表取締役、高樋市長

新工場は同市浅瀬石川合で10月から稼働予定で、延べ床面積約850平方メートル。シャイニーの商標で知られる青森県りんごジュース(黒石市)から原料の供給を受け、初年度の10、12月は約500トの生産を目指す。当初5人の地元雇用を予定している。

同社によると、リンゴを使った飼料は甘さと香りで牛の食いつきが良く、食物繊維による消化促進も期待できるが、現在は90%以上を中国からの輸入に依存している。(外崎英明)

### 出穂割合77% 平年比73%ト高

県内、31日現在  
県「攻めの農林水産業」推進本部は1日、7月31日現在の県全体の出穂割合が

平年を73%上回る77%だったと発表した。出穂割合が50%に達する「出穂最盛期」は平年より6日早い同30日だった。気温が高めに推移し、生育が進んだためという。

い順に西北90%(平年5%)、中南82%(同4%)、東青63%(同2%)、三八60%(同4%)、上北57%(同3%)、下北18%(同4%)。それぞれ平年を14、85%上回った。

同本部は今後も高温が見込まれるとして、水を入れ替えて根の老化防止に努めるよう注意喚起。水稲の害虫となる斑点米カメムシ類の発生も予想され、防除を徹底するよう呼びかけてい